

## 新型コロナウイルスの対応について

【ご意見・ご要望】（投稿日：2021年8月12日）

COVID-19の対応について意見があり、ご連絡しました。

職員の方々も大変ななか、お仕事をされていることと存じます。どうぞ、教員・職員・学生、全ての人にとってよりよい大学のためにご検討くださることをお願い申し上げます。

### 【COVID-19に関する全体の方針】

「状況が元通りになったら、元通りの大学生生活を送れる」というのは、感染拡大が明らかになってから1年半経過した今となつては、甘すぎる希望的観測だと思います。

「状況が元通り」になることが、数年単位では不可能であることが明らかになってきているなか、「元通りの大学生生活」を志向して動き続けることは誤りだと思います。

「元通り」を基準に設計をし、緊急事態宣言が出る度に、その都度その都度対応する、というのは、学生を精神的に非常に不安定な状況に置いています。職員・教員の方々も、常に対応を迫られて、大変なのではないでしょうか。

「元通り」を志向するのではなく、今度も感染を警戒することを標準として、またCOVID-19以外のウイルスのパンデミックも今後起こりうるという前提にたつて、制度設計をしていくことが、今大切だと思います。

具体的には（海外のトップ大学だと既に行われていることですが）

対面講義を安全に受けられる場作りを目指しつつも、

- ・どの授業についても、録音を義務づけ、対面に欠席しても授業についていけるようにする。
- ・全ての講義で、オンライン試験を選択可能にすることが不可欠だと思います。

オンライン履修配慮申請をして、許可を出して、個別で対応して、ということをやっているよりも、長期的に考えると全体のコストは低く抑えられると思います。

学生の背景も多様化しています。育児や介護に従事しながら通学している者、病気を抱えながら学んでいる者、PMSなど「常に同じ状態の健康を保つ」ことが困難な身体を持つ者。COVID-19の状況を置いておいても、これらの学生たちが学びの機会を奪われないうために、必要な措置だと思います。

成績評価の観点から、オンラインは対面と同様には評価できないというのであれば、オンラインでの受講であることを成績表に追記するなどでも、現在は構わないと思います。精神的な面や学びの面から対面を希望している学生も、様々な事情から対面に不安を感じている学生も、共存できるように制度設計をしてください。

「可能な限り対面授業を実施することが、学生の心身の健康の適う」という認識があるように思いますが、これは学生の個別の事情を鑑みない、一方的な押し付けです。平常時なら妥当するかもしれませんが、今はパンデミックの最中です。このような押し付けは、不適當であるばかりか、暴力的です。

また、京都大学は「全国的な要請」といったものに追随する形で、方針を決めているように思われます。パンデミックは全国的な事象ですし、一大学だけで動くわけではないので、このことの重要性はもちろんあります。しかし、前提として、京都大学は京都大学として一つの独立した組織であるはずで、しかも、ただの組織ではなく、日本を牽引することを期待されている学術の場であるはずで、対面授業でないと、学生の学修機会や環境の確保は困難であるという前提自体も疑うのが学術ではないでしょうか。この危機の状況を、一つの実験の場として、学びの在り方を考えていく、そういう姿勢で取り組まれている教員の方もおられます。後世、この危機にどう対処したかが検証されるはずで、京都大学の名を恥ずかしめないような対応を、どうか考えていってください。

私は基礎疾患のある家族と同居しているためオンライン配慮の許可を頂いた者ですが、要件（自身に基礎疾患がある）を満たさないため、オンライン試験を受けられない等の不利益がありました。「そういう方針（オンラインだけでは単位認定ができない可能性がある）になっていることは、以前から示しているはずだ」との回答のみで、大学に行くことで家族を命の危険に晒すわけにはいかない私は、試験を受けることは叶いませんでした。

このような対応ばかりで、何か意見を言うことも、必要なお願いをすることも、精神的な負荷が大きく、躊躇われるということが続いています。

少しの工夫と配慮で、このような不利益は避けられたはずで、

今年卒業する私は、学びの環境が整った京都大学の姿は見ることができなさそうですが、後輩のためにもお願いしたい次第です。卒業後も、動向を注視しています。

#### 【デルタ株について】

感染判明者の数ではなく、デルタ株の拡大に留意して対策をする必要があるのではないのでしょうか。

米疾病対策センター（CDC）は、デルタ株がエアロゾル感染していること、ワクチン接種後でも感染可能性があることを指摘しています。

日本ではこのことはあまり報道されておらず、学生や教職員でも、この情報を知らないという人は少なくありません。

「後期は対面らしい」という雰囲気や、「COVID-19 対策は大体分かってきた」という印象が、デルタ株への理解を妨げているように思います。

後期の授業がどうなるかは今誰にも分からないと思います。感染症の状況は刻一刻と変わることをもう一度、学生・教職員全体で確認することが必要なのではないのでしょうか。

具体的には

- ・デルタ株の情報について、積極的に発信を行うこと

を求めます。京都大学は国内トップレベルの医学部を擁する大学です。

山中先生をはじめとして、研究者の方々は現在個人的な発信を行っておられます。研究者の方々の叡智を結集し、少なくとも大学内部に対して、積極的な発信を行うことが必要なのではないのでしょうか。

対外的な発信も必要だと思います。大学として発信を行うことには、誤情報に伴うリスクなどもあることは重々承知です。この点についても、情報に対するリテラシーの在り方も含めて発信を行うことが、研究大学としての責務ではないかと思えます。

#### 【マスクについて】

「マスクをしていれば、それでいい」という考えが蔓延しているように思います。

- ・マスクの材質によっては十分な効果が見込めないこと（ウレタンマスクを使用している人があまりに多いです）

- ・マスクをしているからといって、完全に感染を防げるわけではないこと

- ・感覚過敏などの事情でマスクができない人がいること

を再度周知することをお願いしたいです。

また、経済的な事情でマスクを入手できないという声も聞きます。経済的な問題についての相談窓口も合わせて広報をお願いします。

#### 【ワクチン接種について】

ワクチンは、発症には効果があるが、他者を「感染させる」ということについての効果は不明であることについて、認識が共有されていません。

「ワクチンを接種したから、もう大丈夫。マスクも必要ない」というのが誤った認識であることを、分かりやすく、周知してください。

学生や教職員が、これを高齢の家族や子どもに説明することを想定して、「分かりやすい」発信をお願いします。

#### 【情報の周知について】

学生は、授業期間外はあまり KULASIS の掲示板を見ません。

ワクチン情報や総長からの通知はメールでの一斉送信だったと記憶しています。上記の情報についても、全ての人が把握することが必要ですので、掲示板ではなくメールでの配信をお願いします。

以上です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【回答】（回答日：2021年9月16日）

（回答部署：教育推進・学生支援部教務企画課、総務部企画管理主幹付リスク管理掛）

【COVID-19に関する全体の方針】

ご意見ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症に対しては、国内外の大学がそれぞれの環境・事情に応じて様々な対応を行っており、授業の実施方法についても同様です。

様々な意見がある事は承知しておりますが、本学では対面授業が重要であると考えています。

8月4日付で総長から「秋からの新学期に向けて、キャンパスにおける学生相互や教職員との交流による実りある教育研究活動が維持できるよう努力を続けてまいりますので、引き続きみなさまのご協力をお願いいたします。」と発表されているとおりです。

ご指摘のとおり、今後の感染状況は予断を許さないものですので、引き続き、オンライン学習・授業の在り方についても検討を進めてまいります。

【デルタ株について】【マスクについて】【ワクチン接種について】【情報の周知について】

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

いただいたご意見等は、関係部署等で情報共有し、今後の参考とさせていただきます。